

フィンランド・シベリア日食観測の概況

編集部

☆ 悪条件にもかかわらず多くの人々が出かけた日食

今回の日食は、フィンランドについては高度が低く、少しの雲にも邪魔される可能性が高いこと、シベリアについては前線帯があり、統計的には全く悲観的であることがわかっていて、にもかかわらず、予想に反して多くの人々が遠征をしたと言えるだろう。これは「秘境」シベリアの魅力、夏の北欧の魅力もさることながら、近年の「日食ブーム」のすさまじさを示すものかもしれない。

ここでは、「日食情報No2」に紹介したツアーを中心に、各地の様子を概観してみよう。

☆ 雲に妨げられたフィンランド

フィンランドは場所により、かなり状況が違っていった。フィンツアーチーム24名・協栄産業チーム20数名が入ったヨエンスーでは、ほとんど全天が雲に覆われ、わずかに太陽のある北東地平線だけに雲の隙間があった。しかし、食の進行とともに隙間は動き、第2接触前に太陽は雲に隠されてしまった。ツアーの中で最も長く部分食が見られたのは、フィンツアーチームの皆既10分前まで、のようである。本影錐はかろうじて見る事ができたようだ。

東急観光チーム14名・オリオン館チーム11名が入ったサボンリンナでは、2時間前までは晴れていたが、日食の時には北東低く雲が出て、部分食も見ることはできなかった。上空は晴れていたが、シャドーバンド・本影錐ともに見ることはできなかった。

コプティック星座館チーム11名は、唯一機上観測を目的としたチームであった。観測機はヨエンスー上空で皆既帯に入ったが、飛行機の能力一杯に上昇しても雲の上に出られず、皆既を見ることはできなかった。

ヘルシンキ沖には、IPS (International Planetarium Society) 主宰の観測船が出ていた。ヘルシンキでもほとんど全天快晴であったが、太陽の方向だけ雲があり、コロナを見ることはできなかった。本影錐はよく見えたそうである。

地上では、アマチュアの観測会議「シグナス90」が開かれていたイロマンツイ、スカイアンドテレスコープ誌の記事で勧められていたレイクサも、いずれも雲に妨げられて観測できなかったようだ。

ただ数カ所、幸運にも雲の切れ目からコロナを見る事ができた所もあったようで、現地の新聞には、地上からの内部コロナの写真が数枚、掲載されている。

一方、S&T誌が企画した機上観測のDC9は、3機が1万m上空にのぼり、素晴らしい極大期のコロナを見る事ができた。フィンランド航空ではこの3機を含め、全部で12機の飛行機を飛ばす計画だったが、2機が空港の混雑で離陸できず、1機は皆既に間に合わないという事態になったそうである。

フィンランドは日本からの直行便もあり、治安もきわめてよい国なので、ツアーではなく、個人旅行で観測に出かけた人もかなりいるようだ。そのような人の中で、コロナを見ることができた人は、ぜひ事務局に連絡していただきたい。

☆ 雨にたたられたシベリア

コスモトラベルチーム百数十名・イーストツアーチーム15名が入った、シベリアのチェルスキーでは、第1接触前から雲に覆われ、日食中は冷たい雨が降って、コロナ・部分食ともに観測はできなかった。ただ、雲に映った本影錐の移動はかなりはっきりとわかったという。

そのような中、イーストツアーチームは飛行機をチャーターすることができ、約4000m上空から見事なコロナを捉えることができた。

☆ 飛ばなかった(?)コンコルド

日食情報No2でお知らせした「エクリプス90計画」は、その後どうなっただろう。計画そのものは、スポンサーになるはずだったBBC・ABC・TBSの全てが手を引いてしまっている。フィンランドでは、コンコルドはレニングラードの空港で待機していた、とか、いや、2機とも飛んだ、とか、噂だけはあったようだ。しかし、飛んだならば得られたはずの映像が、いまだにどこにも現れてこない。おそらくは、資金不足で飛ぶことができなかったのではないだろうか。

☆ 催行されなかったツアー

フィンランド方面では、日本旅行神戸支店によるツアーが不成立となった。おそらくは、出だしの遅さもあって、参加者がいなかったためと思われる。

シベリア方面では、日ソ旅行社によるツアーが不成立になった。これはチャーター便の手配がうまくいかなかったためと思われる。60名近くいた参加希望者のうち、わずか2名がイーストツアーに移ることができた。

冒頭に述べたように、今回の日食は条件の悪い日食であった。それを十分承知の上で出かけた人々は、それなりに満足して帰国したようである。しかし、条件の悪さを認識しないで参加し、裏切られたような気持ちで帰国した人もいるようだ。

来年のハワイ・メキシコ日食は、「最高の条件の日食である」と言われている。しかし、早くから申し込んでいる数千人の中で、お天気は水もの、であることを承知している人は、果たどのくらいいるのだろうか？

旅行者・企画立案者はいわずらに煽るだけでなく、ツアーの成立、旅行条件など、あらゆる面での誠意を期待したい。